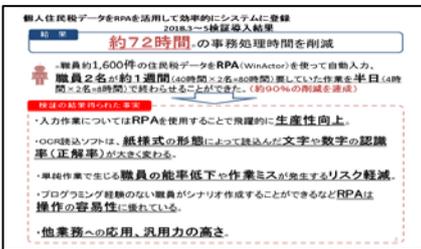


府省名	国土交通省	部署名	中国地方整備局
取組のポイント			
RPA(Robotic Process Automation)を導入し、内部管理業務プロセスを見直すとともに、データ入力作業を自動化。RPAで作成した動作シナリオについて他の地方整備局との共有化を検討。			
取組概要			
<p>【取組の背景】</p> <p>これまで行ってきた業務の統廃合が成熟化してきたこと、今後も法令等に基づいた簡素・合理化できない業務領域が存在することなどを踏まえ、業務プロセス自体をRPAの導入で見直すとともに、これまで人間が行っていた基幹システムへのデータ入力作業を自動化することで、企画力や対人交渉力等を必要とする分野への人的資源の転換を図りながらワークライフバランスを推進する必要があった。</p> <p>【取組の内容】</p> <p>内部管理業務のうち、導入効果の高さや他の業務への応用可能性を踏まえ、個人住民税のデータ入力業務をRPA導入対象とした。RPA動作シナリオはプログラミング等の経験のない事務担当者が作成。試行の結果、単純作業で生じる職員の能率低下や作業ミスリスクも軽減されることを確認した。</p> <p>試行結果を踏まえ、社会資本整備総合交付金システム内の検索・抽出及びフォルダ保存の自動化といった、他の内部管理業務へ活用範囲の拡大を実現。今後は更に5業務以上を選定し、約1,000時間の効率化を目指している。</p> <p>また、RPAで作成した動作シナリオは、他の組織における同一業務に転用可能であるため、他の地方整備局と連携し、個別業務に精通した各業務担当者間で導入範囲の検討等を行う意見交換会を開催。各地方整備局が作成したRPA動作シナリオの共有可能性について検討を進めている。</p> <p>【取組の成果】</p> <p>毎年更新を要する職員約1,600名分の住民税額のデータ入力を、RPAにより自動化し、これまで職員2名が約1週間(40時間×2名=80時間)程度要していたが、約半日(4時間×2名=8時間)で可能となり、約72時間(約90%)の業務時間削減。</p>			
 <p>RPA検証導入結果</p>		 <p>4つの地方整備局による意見交換会</p>	
講評			
業務の棚卸しを行った上で、RPA導入効果も勘案して対象業務を選定しており、新技術を活用した業務効率化の先進事例として評価できる。今後、他業務、他拠点への更なる波及効果が期待できる。			